

経済学部商業学科通信教育課程

I 2012年度認証評価における指摘事項（努力課題）

該当なし

II 2016年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2016年度大学評価結果総評】

経済学部商業学科通信教育課程における2015年度大学評価委員会の大学評価報告書では、2013年度からの通信教育部の改革を評価するとともに、2016年度からのカリキュラム変更の効果について客観的データに基づいて検証し、さらなる改善に結びつけることが期待されていた。自己点検・評価シートの記述によれば、多様なスクーリングは学生に好評で、在籍者数も下げ止まったとのことであり、今後は在籍者数の動向を数値で提示するとともに定員充足に向けてのさらなる検証が期待される。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

通信教育部の重点目標として、2018年度に70科目のメディアスクーリングの開講を挙げていたが、2017年度に72科目開講と、1年前倒して目標を達成する見通しとなった。その中で、商業学科の開講目標数は16科目であったが、2016年度までに21科目を開講することができ、通信教育部全体の目標達成に貢献することができた。通信教育部メディアスクーリングは、HOSEI2030「教育のオープン化」において先行事例として深く関係していくことが期待されているため、引き続き拡充を進める方向であるが、これについても、商業学科では2017年度に向けて新たに2科目のメディアスクーリング科目の開講を行う準備ができた。またメディアスクーリングの安定的運営のためのサーバ移転拡充の準備も進めている。定員充足に向けては、学務部教学企画課と密に連携をとり、文部科学省への対応を継続していきたい。

【2016年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、2016年度までにメディアスクーリング21科目を開講し、さらに新たな開講の準備ができていないことに加え、メディアスクーリングを安定的に運営するためサーバの移転拡充を準備していることは、評価結果への対応として適切である。

定員充足についての道は険しいと思われるが、更なる対応を期待したい。

III 自己点検・評価

1 内部質保証

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 内部質保証システム（質保証委員会等）を適切に機能させているか。

①質保証に関する活動は適切に行われていますか。 はい いいえ

【2016年度の質保証に関する活動概要】※箇条書きで記入。

- ・通信教育課程の学事事項は、通信教育学務委員会で審議事項である
- ・必要に応じて、各学部教授会の審議・報告事項としている
- ・通信教育学務委員会の委員の内、1名はFDアドバイザー・ボードの構成員である
- ・通信教育部事務部管理職は、FDアドバイザー・ボードの構成員である
- ・シラバスの第三者確認は、質保証委員会を主催する教授会執行部のメンバーでもある通信教育課程主任と、学務委員で実施
- ・通信教育課程主任/学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、通信教育学務委員会と学部教授会との連携のもとで、質保証に関する活動は適切

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

に実施されている。

2 教育課程・学習成果

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	
【学位授与方針】 「自由と進歩」の建学の精神を理解し、年齢に関係なく学問的関心を持ち続け、何事にも挑戦し続ける姿勢を持つことを前提とし、人文・社会・自然などに関する幅広い教養と、通学課程と同一水準の、時代の先端を行く専門分野の学識を取得し、生涯学習社会において、自立的に自由な発想と柔軟な判断が出来る能力を修得することを学位授与の方針とする。商業学科においては、経営学、会計学、商学及び経済学の専門分野を網羅した専門科目について、スクーリングなどを通して履修し、所定の科目を含め124単位を修得した者に対し、学位を授与している。	
①学部(学科)として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件)を明示した学位授与方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
2.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	
【教育課程の編成・実施方針】 通学課程と同様であることを原則としているが、多様な学習ニーズを持つ通信教育部の学生に配慮し、通信教育部独自のカリキュラムを編成する必要がある。併せて、メディア授業をはじめ、地方・週末スクーリング等、社会人学生の利便性向上を目的とした授業形態の工夫を行うことが求められる。 商業学科における経営専門科目を中心としたカリキュラムは、簿記・会計学、経営管理、経済史、統計学、経済・社会政策、人的資源管理、商法、民法、労働法などを幅広く網羅したものであり、通学課程(本学経営学部)のカリキュラムとほぼ同等の編成となっている。	
①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
【根拠資料】 ※冊子名称やホームページURL等。 ・ http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/target.html#menu ・ http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/diploma.html#menu ・ http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/curriculum.html#menu	
③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～400字程度まで) ※検証を行う組織(教授会や各種委員会等)や検証の時期等、検証プロセスを記入。 各種データの収集や学生アンケートを実施し、学習効果や満足度等の把握を継続して行っている。通信教育学務委員会において、経年(カリキュラム変更前後)における成績分布や単位修得試験受験者数・レポート提出数等のデータも提示されている。シラバス第三者確認を活用し、適切に単位修得方法の厳正な運用ができるよう、環境整備を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・ 特になし	
2.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。	S <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
(～400字程度まで) ※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。 通信教育課程は、通信学習およびスクーリングの2つの形態で授業を実施しているが、特にスクーリングは、昼間6日間の夏・冬期スクーリング、夜間15週の春期・秋期スクーリング、週末3日間の週末スクーリング、全国主要5都市での地方スクーリング(3日間)、これにインターネットを利用したメディアスクーリング、ゴールデンウィーク中の3日間に行うGWスクーリングとその形態は多様である。また、夏期スクーリングでは、より社会人が受講しやすいよう18:30～の時間帯に授業を開講し、そのニーズに答えている。そして、前年度に引き継ぎ、メディアスクーリングの開講科目を増や	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

す努力をしており、通信教育課程全体（他学科公開科目を含む）として 67 科目（2016 年度）を開講している。これら多様なスクーリングは、さまざまなニーズを持つ多くの学生にとって、選択肢の幅を広げるのみならず、能力育成の観点からも大きなメリットとなっている。

【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等

- ・2017 年度スクーリング開講一覧

②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。

S A B

(～600 字程度まで) ※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。

2013 年度から大幅なカリキュラム改革を実施し、できる限り通学課程のカリキュラムと同等の科目内容に改め、経営学・会計学・商学に関連する領域を広く履修できるように配慮した。また、真に学ぶ意欲と適性のある学生に対し、通学課程と同一水準の教育を施し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献しうる人材を育成するための授業科目を体系的に配置した。2 単位構成の科目を原則として、より柔軟な履修体系とし、幅広い履修ができるようにしたことも、学生から好評を得ている。これにより、日本の通信教育課程において、体系的な経営学の教育を実現した学科の 1 つとなっている。2016 年度がこのカリキュラム変更等を中心とした通信教育部改革後 4 年目の完成年度であったことから、通信教育部改革内容が適切であって効果的に機能してきたか、改善が必要な場合どのような点が挙げられるのか等について、今後検討を進めていきたい。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・商業学科カリキュラム

2.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・Web 学習相談制度
- ・ステップ型の学習ガイダンス（1 ステップ：職員による制度説明・2 ステップ：卒業生による経験談他・3 ステップ：教員による学習指導他）

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

(～400 字程度まで) ※取り組み概要を記入。

通信学習を進めるにあたり、生じた疑問点に質問することが可能な「学習質疑」制度があり、直接担当教員の指導を受けることが可能となっている。また、スクーリング時においてもオフィスアワーを設置している。夏期・冬期スクーリングにおいて「通教生のつどい」を実施し、学生間のみならずこれに参加する教員・学生間での情報交換も可能となる場の提供も行っている。直近の「通教生のつどい」（冬期スクーリングにて開催）には、約 90 名の学生および教員が参加し、学習意欲向上の一助にもなっている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・学習サポート_学習のしおり 2017 より抜粋

③1 年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。

はい いいえ

【履修登録単位数の上限設定】※1 年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。

年間履修単位数を 49 単位までと定めている。スクーリングの年間登録単位数を、教職・資格科目も含め 49 単位までと定めている。

【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。

本科生は教職・資格科目を 49 単位とは別に、原則合計 60 単位まで履修できる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学通信教育部学則
- ・単位制度_学習のしおり 2017 より抜粋
- ・科目等履修生（選科生・教職生）受講条件_2017 年度入学案内より抜粋

④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。

はい いいえ

【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会を主催する教授会執行部でもある通信教育課程主任と、学務委員による全シラバスチェック 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【検証体制および方法】 ※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケート質問事項「授業の運営が適切であった」等で確認 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
2.5 成績評価と単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
【確認体制および方法】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価方法と単位認定の内容の明記および遂行 ・通信学習_設題総覧「設題解答にあたっての解説・注意等」 ・シラバス「成績評価基準」 ・スクーリング_シラバス「成績評価基準」、「講義内容」「予習範囲」等単位認定への道筋を記載 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス記載のシラバス 	
②他大学等における既修得単位の認定を適切な学部（学科）内基準を設けて実施していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 編入学生の単位認定は、2年次・3年次および本学通学課程からの4年次編入、学士入学者ごとに認定範囲を定めており、併せてスクーリング単位についても一定の範囲で認定を行っている。また、在学中に放送大学で修得した単位を最大10単位まで本学のスクーリング単位として認定する制度もある。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・放送大学単位認定_学習のしおり 2017より抜粋 	
2.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。	はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ
【データの把握主体・把握方法・データの種類等】 ※箇条書きで記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・進級判定は、卒業判定と併せて教授会審議事項 ・成績分布/レポート数/単位修得試験者数/スクーリング受講者数等は、学務委員会を通じて教授会に報告 	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
②学位授与方針に明示した学生の学習成果を把握・評価していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
（～400字程度まで）※取り組みの概要を記入（取組事例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等）。 通信科目はレポート添削に加え、単位修得試験（筆記試験）によって一連の学習の最終的な到達点を測定している。スクーリングでは、授業の最終日に実施する最終試験（筆記試験）でその成果を測っている。また、メディアスクーリングでは、中間レポートを課している科目も多くあり、学習効果の向上を心掛けている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取組事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※ (1) ~ (2) の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・引き続き成績分布等のデータ蓄積を行う。
・今後の検討課題として、2019年度施行の教職課程の再課程認定がある。教職課程は学部カリキュラムに密接に関係しているため、2019年度施行に向けて新しい学習指導要領について慎重な議論が必要である。通学課程も同様に再課程認定が行われるため、通学課程と連携し、適切な対応をしたい。

【この基準の大学評価】

①方針の設定に関すること (2.1~2.2)

経済学部商業学科通信教育課程の教育目標、学位授与方針、教育課程の編制・実施方針は、適切に設定・公表されている。それらの検証としては、学生アンケートによる満足度や学習成果の測定、成績分布、単位修得試験受験者数、レポート提出数等のデータを用いて行われている。

②教育課程・教育内容に関すること (2.3)

経済学部商業学科通信教育課程は、多様な形態のスクーリングを数多く提供し、さらにメディアスクーリングの開講科目を増やすことによって、様々なニーズを持つ学生の選択肢を広げ、能力を育成することのできる教育課程の編成がなされている。一方で、2013年度から、順次性・体系性が確保された通学課程と同等の科目内容となるよう大幅なカリキュラム改革を行い、通学課程生と同一水準の教育を施す取り組みがなされている。

③教育方法に関すること (2.4)

経済学部商業学科通信教育課程は、Web 学習相談制度やステップ型学習ガイダンスにより、履修指導は適切に行われている。学習指導に関しては、直接担当教員の指導を受ける「学習質疑」や、スクーリング時におけるオフィスアワーで行っている。年間の履修登録の上限は49単位までと定められ、通信教育課程主任と学務委員によるシラバスチェックなどが行われており、効果的な学習を確保する措置は適切である。

④学習成果・教育改善に関すること (2.5~2.6)

経済学部商業学科通信教育課程の成績評価方法と単位認定内容については適切に明記・公表されている。他大学や本学通学課程からの編入学者の既習単位の認定は、基準を設けて適切に行われている。
進級判定は、卒業判定と併せて教授会で審議されており、成績分布等のデータは学務委員会を通じて教授会に報告されている。また、スクーリングによる最終試験、レポート添削や単位修得試験などによって、学習成果の把握は適切に行われている。

3 学生の受け入れ

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	
【学生の受け入れ方針】	
「社会に開かれた大学」として、高等教育の門戸を広く開放することは、通信教育課程の使命であると言える。このため、学ぶ意欲のある幅広い年齢層に対し、「いつでも、どこでも」学ぶことが出来る環境を整備することが必要である。その上で、高等教育機関であることを大前提として、学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあって、自己の知識や能力を社会に還元する意欲を持った人材を受け入れることを基本方針としている。	
①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
3.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	
①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
(～200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。 定員充足のあり方については、通信教育課程全体にかかわる大きな課題である。文部科学省担当部署も本件について十分認識していることを確認している。学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例をはじめ、情報収集にも力を入れ、	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

引き続き改善に向けた検討をしたい。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・大学通信教育設置基準

3.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。

S A B

(～400字程度) ※検証体制および検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

学生募集および入学者選抜結果については、毎年度「通信教育学務委員会」で志願者数、合格者数、入学者数等の関連データが、ともに適宜報告される。データを踏まえ、「通教通信教育課程主任および通教通信教育学務委員」が現状と課題を教授会にフィードバックしている。志願者選考等は通信教育課程主任/学務委員が実施・検証している(通読判定と呼んでいる)。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2016年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部の定員充足のあり方については、通学課程の設置・認可、アフターケア等への影響もあるため、引き続き学務部教学企画課と密に連携をとる。

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程の学生の受け入れ方針は適切に設定されている。定員充足については通信教育課程共通の課題であり、学務部との密な連携のもとでそのあり方を検討していくとされている。非常に困難だと思われるが、引き続き改善に努力されたい。

学生募集および入学者選抜の結果については、学務委員会で報告・検証され、現状と課題についてのフィードバックを教授会に行っている。

4 教員・教員組織

【2017年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【求める教員像および教員組織の編制方針】

4.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい いいえ

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。

- ・経営学部執行部(学部長1名、教授会主任1名、教授会プログラム主任1名、教授会副主任1名、通信教育課程主任1名)
- ・教授会(原則として月1回)
- ・通信教育学務委員会/教養教育部会(原則として月1回)

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学通信教育部学則

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

- ・通信教育部学則に関する規程
- ・通信教育関係学部長会議規程
- ・通信教育学務委員会規程
- ・通信教育教養教育部会細則

4.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。 はい いいえ

（～400 字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。
 大学通信教育設置基準の附則3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程専属の専任教員は配置していないが、教科担当者に必ず専任教員を配置し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行ってということで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・大学通信教育設置基準

2016 年度専任教員数一覧 (2016 年 5 月 1 日現在)

学部・学科	教授	准教授	講師	助教	合計
商業	28	2	2	0	32

※学校基本調査の教員数を記載。実際の所属教員数とは一致しない場合あり。

(2) 特記事項
 ※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)
 ※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】
 通信教育学務委員会と教授会が連携するために、経営学部執行部として通信教育課程主任を選任し、通信教育学務委員とともにその任にあたっており、役割分担と責任の所在は明確である。通信教育課程専属の教員は配置されていないが、通学課程の教員が通信教育課程の教育を責任をもって遂行している。

5 学生支援
 【2017 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 学生支援に関する大学としての方針に基づきとしての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

①卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。 はい いいえ

【データの把握主体・把握方法・データの種類等】※箇条書きで記入。
 ・卒業判定は、進級判定と併せて教授会審議事項
 ・休・退学は、学生からの申請に基づき教授会審議事項

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
 ・特になし

(2) 特記事項

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「S・A・B」は、前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

※上記点検・評価項目における 2016 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・特になし

【この基準の大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程の卒業・卒業保留・留年者および休・退学者については、教授会で審議され、適切に把握されている。
--

IV 2016 年度における現状の課題等に対する取り組み状況

評価基準		教育課程・教育内容
現状の課題・今後の対応等		カリキュラム変更等を中心とした通信教育部改革後 4 年目を迎える。いわば完成年度であることから、通信教育部改革内容が適切であったか、改善が必要な場合どのような点が挙げられるのか等、引き続き検討を進めたい。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本自己点検・自己評価項目 4「成果」に記載のとおり、引き続き各種データを収集・蓄積している。本年度で完成年度を迎え、次年度の総括作業に向けたデータが完成した。 ・改革の総括に向けたデータ収集と並行して着手可能な改善に取り組んでいて、在学年数の長い学生に対し卒業計画書を作成させ指導する試みを始めている。2016 年度については 11 人の指導を行った。
評価基準		教育方法
現状の課題・今後の対応等		<ul style="list-style-type: none"> ・2018 年度に向けて通学課程では学年歴の見直しが検討されているので、通信教育課程でもその議論に併せて教育方法の検討をしていく。 ・これまで通信教育部生には統合認証 ID が付与されておらず、それに伴い各学生は授業支援システム等を利用できない状況にある。2017 年度に向けて、統合認証 ID の付与に関して総合情報センターと検討を重ねており、実現すれば教育効果の大幅な向上が期待できる。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・通学課程での学年歴の見直しが 2018 年度からとなったことを踏まえ、通信教育課程も 2018 年度から 100 分授業に見直しを行うことを決定した。引き続き、通学課程に併せた教育を深化させたい。 ・現在、通信教育部生には統合認証 ID が付与されていないが、過去複数年を通じて 2017 年度からの統合認証 ID 付与について総合情報センターと交渉を続けてきた。結果として、総合情報センターより「これまで通り (付与なし)」という回答があった。通信教育部はメディアスクーリングの拡充を進めている中で痛手ではあるが、今後に向けて通信教育部生の電算環境の充実について引き続き検討を進めたい。例えば、通信教育部独自で少なくとも e-mail アドレスの付与ができないか検討していきたい。
評価基準		成果
現状の課題・今後の対応等		・引き続き成績分布等のデータ蓄積を行う。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・当初の予定通り、成績分布等のデータ蓄積を行っている。 ・年度におけるデータは、通信教育課程主任・学務委員を通じて、教授会にフィードバックしている。 ・通信教育部の重点目標として、2018 年度に 70 科目のメディアスクーリングの開講を挙げていたが、2017 年度に 72 科目開講と、1 年前倒して目標を達成する見通しとなった。その中で、商業学科の開講目標数は 16 科目であったが、2016 年度までに 21 科目を開講することができ、通信教育部全体の目標達成に貢献することができた。通信教育部メデ

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「S・A・B」は、前年度から「S: さらに改善した、A: 従来通り、B: 改善していない」を意味する。

		アスクーリングは、HOSEI2030「教育のオープン化」において先行事例として深く関係していくことが期待されているため、引き続き拡充を進める方向である。これについても、商業学科では2017年度に向けて新たに2科目のメディアスクーリング科目の開講を行う準備ができた。
評価基準		学生の受け入れ
現状の課題・今後の対応等		通信教育部の定員充足のあり方については、通学課程の設置・認可、アフターケア等への影響もあるため、引き続き学務部教学企画課と密に連携をとる必要がある。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	当初の予定通り、学務部教学企画課と密に連携をとり、文部科学省への対応をしている。次年度も継続して対応していきたい。

【2016年度における現状の課題等に対する取り組み状況の評価】

経済学部商業学科通信教育課程のカリキュラム改革の点検、統合認証の付与、成績分布データ等の蓄積については適切に取り組まれている。一方、定員充足については、商業学科独自の対策を引き続き検討されたい。また、成績分布等のデータについて、その分析にも取り組んでいただきたい。

【大学評価総評】

経済学部商業学科通信教育課程では、メディアスクーリングの早期導入、多様な形態でのスクーリングの実施など、さまざまなニーズを持つ学生の選択肢を広げつつ、学習成果の向上を図るための取組みが進んでいることは高く評価する。一方で、定員充足には通信教育課程の共通の課題ではあるが、商業学科独自の取り組みに期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「S・A・B」は、前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。